

令和 7 年度 とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1457
施設名	もんなかほうゆう保育園
施設所在地	東京都江東区冬木 11-1 イシマビル 1・2 階
法人名	社会福祉法人豊友会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音

<テーマの設置理由>

もんなかほうゆう保育園のこどもたちは、音楽に合わせて体を動かしたり、歌ったりすることが大好きで、積極的に活動に参加している。

2 歳児ではランニング活動（略してラン活）が大流行し、広い公園では、思い切り走り回りラン活を楽しんでいた。保育者がペットボトルでひっぱる玩具を作り、そのペットボトルをひっぱりながらラン活を開始すると、初めはペットボトルが地面に引きずられ、手から伝わるその振動を楽しんでいたが、自分の後ろから「音」がついてくことに気がつき、「これは何の音？」と音に興味をもち始めた。自分が止まると音が止まる？ ペットボトルの中身が違くと別の音になる？ そんな音の不思議に気がついたこどもたち。そんな発見から「音」をテーマに、こどもたちの興味を広げていきたいと、「音」をテーマにした。

2. 活動スケジュール

● 日々のあそびの中で音を感じていくため、年間を通して継続的に行った。

- ① ペットボトルを地面で引きずると、どんな音？
- ② 身の回りの素材を触ったらどんな音がするかな？
- ③ 大きな音がする！「これは何の音？」（護摩焚きの太鼓の音）
実際に太鼓をたたいてみよう！ うたって踊ってコンサート開催！
- ④ 散歩先ではどんな音がする？
- ⑤ 怖い音ってどんな音？
- ⑥ 本物の楽器に触れてみよう。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設置

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設置
- ・活動中のこどもの姿・声、こども同士や保育者との関わり

①（乳児クラス）ペットボトルを地面で引きずると、どんな音？

【準備物】

●ペットボトル玩具（どんぐり、小石、小豆、米、マカロニ） ●ペットボトル楽器（どんぐり、小石、小豆、米、マカロニ） ●CD ●キーボード

【環境】

●全員が手に取れるよう人数分の玩具を作成し、好きなときに手に取れるようにした。

【活動内容】

走るとペットボトルがカラカラ鳴り止まるとその音も止まることに気がつく、走ることはもちろん、音が鳴るのを楽しんでいた。保育者が中にどんぐりや米、小豆、マカロニなど様々な素材のものを入れ提供し、「どんな音がするかな？」と声をかけると、音の表現を言葉にするのは難しいものの音の違いに気がつき、声を出して笑ったり、その場で立ち止まって友だちと一緒に少しだけ動かして音の違いを比べてみたり、音の違いに興味をもっていた。

また、小さいペットボトルに同じ素材のものを入れ楽器としても楽しんだ。保育者が「どんな音がするかな？」と、サラサラ、カチャカチャ、ガラガラ等、音の表現を代弁すると、その表現に合うものから、ペットボトルを振り「ガラガラだね！」「サラサラだね！」と友だちと言い合っていた。音楽が流れると歌を歌いながら、リズムに合わせて音を鳴らし、合奏も楽しむ様子が見られた。



② （全学年）身の回りの素材を触ったらどんな音がするかな？

【準備物】

- 新聞紙 ●折り紙 ●緩衝材 ●タライ ●ヨーグルトカップ ●スプーン ●氷
- スポンジ ●ビニール袋 ●ヨーヨー ●空容器（マヨネーズ、ポンプ式容器等） ●鉄棒

【環境】

- 様々な素材のものを準備し、興味を広げられるようにした。
- 普段のあそびから発展できるよう、いつでも手に取ってあそべるように準備した。また、十分な量を準備し、何度も繰り返し行えるようにした。

【内容】

（乳児）

大きな新聞紙でボールを作ろうと、保育者が新聞紙を丸めはじめると、「何してるの？」と興味を示した子どもたち。「大きなボールを作るんだよ」と伝えと、子どもたちからも「やりたい」との声。大きな新聞紙が力を入れると音を立てて小さくなっていく様子に夢中になり、グシャグシャ～、ギュッギュッと声で表現しながら丸めていた。丸めずに新聞紙を破く子には、保育者が「ビリビリしたの？」と言いながら一緒に破くと、子どももいっしょに「びりびりびり～」とさらにたくさん破く姿があった。

また、ビリビリ以外にも、「ジャー！」「シュー！」と聞こえてきた音表現する子もいた。新聞紙で遊んだ後の片付けでは、破いて細くなった新聞紙をビニール袋へ入れた時のビニール袋のカシャカシャという音が気に入り、ビニール袋だけを何度も触って音を出す子もいた。新聞紙を入れ袋の封をすると、その大きくなった袋を叩いて音を出す姿もあった。

（幼児）

荷物が届いた際に梱包されていた緩衝材は子どもたちに大人気。指先でつぶすとプチと音が鳴り、ギュッと握るとプチプチプチと連続的な音が鳴ることに気がつき、友だちと一緒にさまざまな方法で試していた。つぶす場所が無くなると、つぶれていない部分を探し友だちに教えたり、「もっとやりたい」と言う子に「ここあるよ」と教えてあげたりする子もいた。保育者が足で踏むと大きな音が出て、子どもが踏むと音が小さいが出る等の違いにも気づくことができ、自分たちで気がついたことを保育者に知らせていた。

鉄棒では、色々な素材で叩いてみるとどんな音が出るかの実験を行い、「短い」「長い」「音が聞こえない」とそれぞれ発見があった中で、特にスポンジはどうしたら音が出るのか？という疑問になり、話し合いの結果、水に思い切り投げてみたらどうか？と意見がまとまり、実際に試してみた。上から落とす、強く投げてみる、遠くから投げてみる等いろいろな方法を試した結果、あまり音に変わりはないものの音の大きさが違うことに気がついた。その後、水であそぶとどのような音が聞こえてくるのかに発展し、氷をつくってみたり、いろいろな形の容器に入れて移し替えてみたり、泡だて器で水をかき混ぜてみたり、ヨーヨーを割ってみたりといろいろな音を発見することができた。



③ （幼児異年齢）大きな音がする！「これは何の音？」（護摩焚きの太鼓の音）

実際に太鼓をたたいてみよう！うたって踊ってコンサート開催！

【準備物】

●平太鼓 ●不織布（ステージ衣装） ●リボン ●すずらんテープ ●マジック ●CD ●ペンライト

【環境】

- 太鼓は自由に叩けるよう、常に保育室に常備しておいた。
- ステージ衣装は好きなものが作れるよう、素材を十分に準備した。

【内容】

近隣にある深川不動堂では、毎日護摩焚きが行われており、ちょうどその時間に散歩へ行き、大きな太鼓の音に興味をもった。別日に実際に護摩焚きに参加させてもらい、近くで聞いた大きな太鼓の音に耳を塞ぐ子もいれば、住職さんが太鼓をたく姿を真剣に見入る子もいた。その後、本物の太鼓をたたいてみたいという思いから、太鼓を準備することにした。実際に太鼓をたたいてみると、保育室内に響きわたる大きな音に驚きつつも、力加減で音の大きさに変化が出ることに気がつき、強弱をつけられるようになった。

それと同時に、アイドル活動に興味をもったこどもたちもあり、グループに分かれて夏祭りでコンサートを開くこととした。自分が発表したいこと（太鼓、ダンス、歌）のグループに分かれ、年長児が中心となり、それぞれが何をするか話し合いを行い、どうしたらより素敵に発表できるのかを考えていった。アイドル活動の衣装については「もっとこーしたい」との意見に、保育者はそれに合う素材を幾つか提案していった。友だち同士で納得いかない場合には具体的な話し合いが盛んにおこなわれ、気持ちの折り合いをつけて活動を進めていった。保護者の方の前で発表し、自分たちで作り上げ、やりきったことで自信にもつながった。



④ （全学年）散歩先ではどんな音がする？

【準備物】

- 傘

【環境】

- 季節によって聞くことのできる音を意識できるようにした。

【内容】

（乳児）

散歩の道中、こどもたちは救急車や消防車、パトカー、車のエンジン音など乗り物の音に反応し、「パトカーきたね」、「バスきた」と、保育者に伝えていた。保育者からは鳥の鳴き声、水が流れる音、風で木々がこすれる音など、こどもが気づきにくい音に対して「なんの音が聞こえてきたかな？」と問いかけ、色々な音を意識できるように取り組んだ。

雨上がりには水たまりへ入り、動きによって水の撥ね具合が違ってくるのが分かったとジャンプしたり走ったり、歩いてみたりと試しているところに、保育者が「ジャブジャブ」や「バシャバシャ」等の音を伝え、その言葉を口にしながら水たまりであそぶ姿が見られるようになった。水遊び＝バシャバシャという表現が見につき、「バシャバシャしたい」と自らしたいことを伝えられるようになった。

（幼児）

強い風が吹いた日に、「これは何の音？」と風が唸る音に気がついたこどもたち。散歩に出るたびに、「今日は風の音はしないね。」「でも葉っぱと葉っぱが当たって音がするよ。」と、目には見えないが、風の影響を受けて発生する音があることに気がつくようになっていった。

公園ではローラー滑り台を滑ると、ローラーが回る音に気がつき、一人で滑るよりも二人で滑る方が大きな音が出て、音が止まるまでに時間がかかることが分かったと、三人、四人、と人数を増やして音の違いを意識しながらあそぶ様子が見られた。次の人が滑る間隔によっても違いがあることに気がつき、滑りながら「今！」「ちょっと早い！」と声を掛け合いながら楽しんでいた。

枯葉踏みでは、たくさんの枯葉の中に入っていき、カサカサと音を立てて楽しむだけであったが、保育者が「どの葉っぱを踏んだら一番大きな音がするかな？」と声を掛けると、それぞれが大きな音が鳴りそうな枯葉を見つけ、踏んで大きさを比べていた。何度か繰り返すうちに、年長児が「チーム戦にしよう！」と声をかけ、友だちを誘い合い3つのグループに分かれ、それぞれのグループで話し合いが行われ、大きな葉がいい、小さな葉がいいと意見を出し合いながら枯葉探しを行っていた。

雨の日には傘を差して散歩にでかけ、雨音を楽しんだ。傘に雨が落ち、定期的に「ポツポツ」と音が聞こえてくるが、たまに「ポツン！」と大きな音が鳴ると、はじめは笑っていただけであったが、それが不定期に続くとなぜだろう？と疑問に変わり、空を見上げて何かがあるのか、どこを歩いたときにそうだったのか、友だち同士で話しながら歩く姿が見られた。雨ではなく、たまに水が落ちてくることに気がつく、そこへ行き、大きな音を友だちと共有しながら楽しんでいた。



⑤ (幼児異年齢) 怖い音ってどんな音？

【準備物】

- おばけ (こどもたちの手作り) ● 音を出せる楽器

【環境】

- お化け屋敷

【内容】

ハロウィンでお化けに仮装したところ、「お化け屋敷がしたい！」との意見があがり、お化け屋敷をすることとなった。入口付近で驚かすグループ、真ん中付近で驚かすグループ、出口で驚かすグループの3グループに分かれ、それぞれがどのように驚かすか、なにを作るかの話し合いを行った。話し合いが進まないグループには保育者が「どんなことをされたら怖い？」等の助言をし、話し合いを進めていった。とあるグループの話し合いの中で出た「突然大きな音が聞こえたら怖いしビックリする！」の意見を全グループで共有し、大きな音を立てて驚かすことになった。床を段ボールでたたいたり、トライアングルを鳴らしたり、怖いと思う音を出す演出は成功し、参加した保護者を驚かすことができた。



⑥ （全学年）本物の楽器に触れてみよう。

【準備物】

- 廃材（箱、段ボール、ラップの芯等） ● 輪ゴム ● リボン ● 絵の具 ● セロハンテープ
- 楽器（タンバリン、鈴、カスタネット、木琴、鉄琴、ウッドブロック、ボンゴ、ドラム、マラカス、ベル他）

【環境】

- 色々な素材を準備し、好きなものを作れるようにした。
- 色々な種類の楽器を準備し、多様な音を楽しめるようにした。

【内容】

（幼児）

「おばけのコンサート」の絵本に影響を受け、一人の子が廃材を利用して楽器作りを始めると、その様子を見て「私も作りたい！」「僕も作りたい！」と好きな楽器を選び、クラス全体で楽器作りが始まった。絵本を見本にしながら「ここは何を使おうかな？」「これ使ってみたら？」と友だち同士でアドバイスし合い、楽器作りを進めていった。クリスマス会についての作戦会議が行われ、作った楽器での演奏をサンタクロースに聞かせるという演目が入り、サンタクロースに合奏を聞かせることを楽しみに、更に楽器作りに力が入っていった。

クリスマス会当日には、無事サンタクロースに合奏を披露し、そのお返しにと本物の楽器をプレゼントしてもらった。自分たちで作った楽器の音と、本物の音を比べてみたり、和楽器の太鼓である平太鼓とドラムの音を比べてみたりして、音の違いに目を輝かせていた。年長児は、木琴と鉄琴の鍵盤の質によって音が違うことにも気がつき、「木は音が短い」「鉄は音が長い」と意見を言い合っていた。保育者が海の波の音に聞こえる楽器を鳴らし、「これは何の音でしょう？」とクイズを出したが、波の音は難しいようであった。これから色々な体験を通し、知っていることを増やしたい。

（乳児）

手作り玩具での合奏は、年間通して楽しんでいる様子が見受けられていた。好きな音楽が流れると、自ら玩具を取りに行き音を鳴らしたり、自分たちで空の牛乳パックに手作り玩具のガラガラを入れて別の楽器を作ったりして楽しんでいた。自分たちで楽器を作ることに喜びを感じながらも、感性が育まれるこの時期に、本物の楽器を自由に鳴らすことができるよう、楽器を準備した。ボタンの色によって音が違うこと、叩く場所によって鳴る音が違うこと、回すハンドルによって音が違うことにはなかなか気がつかなかったが、今までの手作り玩具とは違う音に気がつき、体を動かしてリズムを取りながら音を楽しんでいた。



4. 振り返り

- 乳児については、音が鳴っていることに気がつくものの、それをどのように言葉で表現したらいいのかがまだ難しいようである。しかし、おもちゃのチャチャチャの「チャチャチャ」の部分に合わせて楽器を鳴らしながら「チャチャチャ」と言ってみたり、大人の言葉の表現を真似て声に出してみたりしている。大人の表現を伝えながら、どのような表現であっても、こどもの素直な表現や気持ちを受け止めていきたい。
- 幼児クラスについては、保育者はあまり声を上げず、どうしたらいいのか分からなくなってしまったとき、意見が割れて話し合いがまとまらなくなってしまったときを中心に、こどもたちが自分で考えられるようなかわりをした。また、こどもたち自ら気がつけるようさり気なく援助をしたことにより、気がつかずに探求につながらないこともあった。声のかけ方や環境構成等、こどもの興味を引く内容で分かりやすく援助することにより、「音」でのあそびがもっと広がったと予想される。こどもの興味、関心をしっかりと見極め、援助していきたい。
- 園全体として、ピアノに合わせてのリズムあそびは、ほぼ全員が積極的に参加している状況である。リズムあそびは無理強いすることではなく、「楽しく行うこと」を重点に置くことで、無理なく進めることができる。引き続き、こどもの成長に合わせ、「音」に触れながら体の発達を育んでいきたい。